

002 空母（大連）の海上試験

漢和防務評論 20180908(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

大連で建造中であった中国国産空母 002 の海上試験が開始されました。船体は遼寧に瓜二つですが、細かいところは違いがあるようです。決定的な違いは、使用目的でしょう。遼寧は実験及び訓練用ですが、002 は実戦用に造られた空母です。中国の今後の空母建造計画はどうか？これが関心の的ではありますが、漢和はこの記事で予想される方向を記述しました。漢和は、近い将来、中国製の中、小型空母が国際市場に出てくるであろうと予想しています。

KDR 香港特電：

5月13日、002空母が海上試験を開始した。昨年4月26日に進水してから約1年経っている。建造開始は2013年9乃至11月なので、工期は5年ということになり、計画通りである。通常海上試験の期間は1乃至2年である。2020年には試験的に就役可能となる。現在は工場での海上試験段階にある。

多くの写真を参考に、遼寧と002空母の外形を比較すると、多少違っているところがある。機構全体、基本構造は当然同じであり、変更箇所は少ない。しかし艦橋は大きく変更された。これは必然性がある。002は最初から独自設計の形をとっているため、当然、バランスを考えたのであろう。艦橋の底部の寸法は明らかに小さくなっている。これは駐機エリアが広がることを意味し、甲板上に4機前後のJ-15を駐機させることができる。これらの小さな変更も実際には極めて重要だ。作戦時、J-15の発進時間を短縮できるからだ。

遼寧の艦橋は、元の設計図に従って造られたが、中国独自のレーダーアンテナが取り付けられ、002とは異なり、明らかに不格好であった。管制室は2層増え、全部で3層になり、艦橋が高くなった。これは002が旗艦として艦隊指揮センターを設けることを意味する。操舵室は分離された可能性がある。上層建築物の中間部が遼寧に比べてかなり大きくなっている。その理由は、アクティブ・フェーズド・アレイ・レーダーのアンテナが大型になったためであろう。同時にステルス化され、したがって菱形になった。船体の外形は完全に同じである。

海上試験段階では、002の方が吃水は深い。このことは内部構造が大きく変更されていることを示している。格納庫が大きくなったのか？或いは居住区が大きくなったのか？簡単に言えば、内部の区画が増えたため、船体構造が重くなったのだ。なぜなら海上試験段階では武器も航空機も積載していないからだ。

レーダー及び航法システム等々について、2者の大きな違いは次のとおり：遼寧は052Cミサイル駆逐艦のシステムを採用したが、002は052Dのレーダーシス

テムを採用している。その他の各種電子作戦、航法システムは、上述の 2 種類
のミサイル駆逐艦の流用である可能性が極めて高い。しかし 003 空母（上海）
は、戦闘システム、レーダーは 055 型ミサイル巡洋艦のものを流用している可
能性がある。

002 と遼寧は、存在意義が全く異なる。後者は主として訓練用である。KDR は
1992 年からこの空母（遼寧）の動向を追跡してきた。最初から結論が明確であ
った。主として、実験と訓練に使用する、と。しかも就役できる残りの期間が
多くても 10 乃至 15 年である。002 は、当然完全に戦闘を目的とした空母であ
り、真の意味で中国国産空母である。

002 の生産が終了したあとは、大連造船所の動向はどうか？今後、以下の可
能性が考えられる。

1. 055 の生産方式のように、上海の江南造船所と一緒に、003 空母を同時生産
する。こうすると、中国の空母生産速度が相当速くなる。しかも 2 つの造船所
はその能力がある。002、003 を含め、すべての大型水上艦は第 701 研究所（北
方造船集団）が設計した。

2. 大連は、今後カタパルトを採用した 002 の改良型を継続生産する。上海は核
動力空母を生産する。

3. 当然、大連、上海ともに核動力空母を同時に生産する可能性はある。しかし
両者ともドックを改修する必要がある。

全体的に見て、大連が空母生産を放棄する可能性は極めて少ない。KDR の予測
では、近い将来、710 研究所は輸出型の小型、中型空母を設計する可能性がある。
国際市場では、この種の空母には依然需要がある。

以上